

(別紙)

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第2期美幌町自治推進委員会（第6回）
開 催 日 時	平成26年10月14日（火） 18時30分 開会 20時20分 閉会
開 催 場 所	しゃきっとプラザ 会議室2
出 席 者 氏 名	委員 旭委員、稲垣委員、井上委員、大野委員、齋藤委員、早田委員、 疋田委員、平田委員、村口委員 町 平井総務部長、露口まちづくり主幹
欠 席 者 氏 名	清野委員
事務局職員職氏名	遠藤政策担当主査、小澤政策担当
議 題	1 美幌町自治基本条例の見直しに係る答申について 2 協働の推進について
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	2名（報道）
会議資料の名称	【写】 ・美幌町自治基本条例の見直し検討について（答申）
会議録の作成方針	☒ 録音テープを使用した全部記録
	☐ 録音テープを使用した要点記録
	☐ 要点記録
その他の必要事項	

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
まちづくり主幹	<u>開会</u> 皆さま、お集まり頂きましてありがとうございます。只今より、美幌町自治推進委員会を開催させていただきます。本日は天候の悪い中、足元の悪い中、また、忙しい時期と重なっている中、お集まり頂きありがとうございます。それでは、最初に会長よりご挨拶頂たいと思いますのでよろしくお願いいたします。
会長	<u>会長挨拶</u> 皆さん、こんばんは。だんだん寒くなって参りました。また、今日も結構雨が降りました。足場が悪い中このようにお集まり頂きまして本当に感謝申し上げます。今日も前回に引き続き協働の部分で皆さんのアイデアといいますか、経験されてきた個性を踏まえたアドバイスをたくさん頂き有意義な会議にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
まちづくり主幹	本日は自治基本条例の見直しに係る答申ということで予定しております。会長より答申内容を含めて答申頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
会長	それでは、説明させていただきます。去る５月１６日に土谷町長より諮問されました美幌町自治基本条例の見直しにつきまして、次のとおり答申させていただきます。協働のまちづくりを推進し町民主体の自治を実現するための最高規範として、平成２３年の４月美幌町自治基本条例が誕生いたしました。この間、制度の浸透やアクションプランは着実な成果を遂げられており、当委員会としましても一定の評価をしているところでございます。自治基本条例は施行から３年余りの経過であり、将来に向け守り育てることが肝要であります。条例の施行以降大きな社会情勢の変化は見られず、特段改正する要素が散見されないことから、基本的に「条例見直しは必要ない」との判断に至ったところであります。 なお、現在、取り組まれております第６期美幌町総合計画の策定におきまして、従来は基本部分となる基本構想は議会の議決を経て定めることとし、市町村に義務付けしておりましたが、平成２３年５月の地方自治法の一部を改正する法律により、基本構想の法的な策定義務がなくなっている状況でございます。このため、総合計画策定と議会の議決を経るかどうかの判断は市町村独自に委ねられた形となっております。 本町では、自治基本条例第３６条において総合計画の策定を明文化しております。まちづくりのビジョンとなる基本構想が、町民の代表である町議会の議決を経ることにより、町全体の総意で策定されたものとして、位置付けられるものと判断をいたしましたところでございます。つきましては、美幌町自治基本条例第３６条第１項の次に、第２項として『基本構想の策定に当たっては、議会の議決を経るものとします。』の条文を付け加え

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
町長	るべきとの結論に達しました。以上、答申させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。（答申書を手渡す） どうもありがとうございました。（答申書を受け取る） 改めましてお晩でございました。お疲れの中出席を頂きまして誠にありがとうございます。色々途中経過の審議の様子は、担当の方から決裁が上がってきますので拝見しております。非常に中身の濃い論議をされている様子が手に取るように、わかるように報告頂いております。それぞれお忙しい中感謝を申し上げたいと思います。只今、5月16日に諮問をさせて頂いた案件につきまして答申を頂きました。本当に長い期間に渡って慎重なる審議をして頂きました。重ねて感謝申し上げたいと思います。自治基本条例につきましては、平成23年4月から施行いたしております。美幌町の憲法とも言えるそういった条例でありまして、基本的には美幌町に合ったような形に作成をして頂きました。そして、それを守り育てて実効性のあるものにしていくというのが、作ればいいということではなくて、これを色々な形で町民の皆さんが主人公であるまちづくりのために使っていくということでもあります。そういった意味で、勿論、私から諮問申し上げて答申頂くのも一つの事だと思いますが、この推進委員会の中ではそれぞれ皆さんがこうしたらいいということ、自ら提案という形で私に頂けるということでもあります。前回の委員会の中でも色々提言を頂きましたので、今後もまた中身の濃い論議がされると思います。生かすも生かさないもこの委員会に掛かっていると思いますので、どうか、今後とも活発な議論をされて私どもにドシドシと意見を頂きたいと思っております。 また、答申頂いた内容につきましては、私共組織の内部では総合計画の基本構想について議会の関与は必要ないという自治法の改正がありましたが、やはり町民の皆さんの代表である議会には審議をしっかりと頂いて、議決を頂くようなことが必要だろうと組織内部では条例の改正は必要だという判断に立っております。時期については、これから答申を頂きましたので慎重なる検討を加えて改正に向けて万全の準備をしたいと考えておりますので、どうか今後ともよろしくお願いしたいと思います。本当にありがとうございました。
まちづくり主幹	土谷町長はこのあと公務がありますことから、ここで退席させていただきますこととお許し願います。 （土谷町長退席）
まちづくり主幹	この後の議事につきましては、会長にバトンタッチしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
会長（司会）	本日は第6回目の会議でございます。5回目に引き続き協働の推進についてありますが、前回の会議は次の日の事業が重なりまして急きょ欠席された方が多かったですが、事務局から資料等について説明することが何かありますでしょうか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
事務局 会長（司会） 事務局（説明） 会長（司会）	前回欠席された皆さまには資料はお送りしておりますので、特にありません。 美幌町で実際に行われています協働の現状と課題という部分で、チェックしていきたいと思っております。皆さんの色々な活動の中で、必ず協働の部分で美幌町のために活動されていると思います。そのことを改めて確認して、その確認の中からまた良くなるようにするなど、課題の部分があればお話頂きたいと思います。 前回、急きょ欠席された方が多かったことから、協働の資料に関しまして説明させていただきます。数多くの指針が全国にはございます。その中から事務局の方でホームページから指針、もしくは概要版をピックアップさせて頂いたのがこの7種類でございます。他にもまだまだありますけど全部に目を通すには莫大な数であり、大体同じようなことが書かれております。最終的にはこうした冊子を作成することを目標にしておりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。 【資料1～3】に基づいて説明。 先程、会長さまより答申頂いておりますけれども、改めまして今後のスケジュールを若干説明させていただきます。今月下旬に役場内で組織しています美幌町自治基本条例庁内推進委員会におきまして、先程答申されました条例改正案を説明しながら内部の意思決定を図って参ります。その後、来月の中旬から下旬にかけては議会の所属委員会の総務文教厚生常任委員会に町としての改正条例案を説明した後、12月を目途に1ヶ月間のパブコメに入ります。意見集約後、来年の3月を目途に町議会定例会に条例改正案を上程し、27年4月1日、27年度から施行するスケジュールとなっております。 それから、先程協働について説明しましたが、美幌町ではボランティア団体などが困った時はお互いさまの精神により、様々な取り組みがされております。3回目の自治推進委員会で「参加」と「協働」についてご議論頂くことでお願いをしておりました。今までは主に「協働」に関するお話で本日も協働についてお願いしますが、参考までに「参加」に関しましては、28年度からスタートします第6期美幌町総合計画の策定につきまして、幅広い層の皆さま方からご意見を頂くことを目的に新しい手法としまして、小学生、中学生の意見聴取をしております。重ねて、子育て中のお母さま方、主に20代の皆さま方から貴重なご意見を頂いております。これも正に町政への参加の一つでございます。町政への参加は色々な手法があると思いますが、これからも若い子どもや女性の皆さんが身近な町政に参加できる内容や仕組みを考えて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。 説明ありがとうございました。協働を推進してくための今後の取組として、このまちづくりの指針もしくはマニュアルを皆さんのご理解の下この委員会で作っていききたいと思っております。その資料を活用して美幌町民の参加を促進していきたいと思います。また、なるべく簡単なものを作っていききたいと思います。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
会長（司会） （前頁に引き続き）	今の説明の中で、自分の関わりの中でこれは協働だなと頭に浮かぶものがありましたら、そこからお話していきたいと思いますが。
委員	マナセンで登録されているサークル団体について、自分たちのサークルを通して町のイベントや官の事業に対してお手伝いすることや、自分たちの趣味の中でのサークルごとに、趣味を生かしたサークルの参画も協働にあたるのではないかと思います。
会長（司会）	そのとおりだと思います。
委員	マナセンに登録するサークル団体は、自分たちの趣味を通し自分たちの枠を越えて町の事業に対して協力したり、マナセン事業のサークルとして初心者教室を開いたりする協力の仕方など、そういった関連は協働に入らないのですかね。
事務局	協働に入ってくると思います。
会長（司会）	僕もマナセンによく関わっているので、協働の部分でもう一步踏み込もうとしたら、団体やサークルで学んだことを町民に還元するようなどころまでいくと、協働の部分でもう少し行政寄りにだんだんってくるものになると思います。
委員	学校に出前講座みたいな感じで行ったり、サークルを通して小学校のお母さん方の学年レクとかに頼まれて行ったことがあります。別に行政に命令されて行った訳でなく、オファーがあって求められているのですけども、サークルとして受け入れてもらえますかということもあり、ボランティアですが参画したこともあります。 子どもの青少年問題とか、そうした育成協の活動なんかも美幌町のまちの子ども達の安心・安全を守るという意味では協働になると思います。
委員	奨励員なんかはどうなのでしょうかね。
会長（司会）	奨励員は正に活動奨励員ですから、自ら立案してやっているのです素晴らしいと思います。
委員	奨励員は通学合宿なんかにはビッチリ入ってやっていますから、あの活動もそうかなと思います。あと、個人で学校の授業に頼まれて2時間授業受けに行ったりとか料理したりとかもそうかなと思っています。
会長（司会）	人材を活用するみたいな部分ですかね。そういう部分をもう少し手厚く膨らますと言うか、厚くしていくことが協働を充実させることにつながっていくのだらうと思っています。
委員	最近だと、一時、青年活動が過去に活発だった時代がありました。今は青年活動が無かったところをビーライブという20代が中心となった若い人達のグループが町の活性化に取り組んでいます。まちづくりの担い手としてビーライブの活動も協働に入るのではないかと思います。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
会長（司会）	青年活動団体などを今以上に倍に倍にと増やしていくためには、こういうわかりやすい指針を提言して、一人でも多くの地域住民の方々が参加できるような部分を、時間を掛けて手作りで作っていかうかと思っています。
委員	例えば、民謡団体などが老人ホームや病院などの医療施設を慰問して、音楽を通じて癒しに行くとか、そういった訪問活動なんかもボランティア活動の一環として協働になるのではないかと思います。
会長（司会）	ありがとうございます。貴重なご意見が出ました。
委員	逆に入っていく人の底辺を広げること。決まったような人じゃなく、底辺を広げていく活動も必要かなと思います。
会長（司会）	そうですね必要ですね。どんな団体や組織でもやはり組織を維持していくには、絶対に若い力を入れていかなければ組織が長続きしません。一定の力で一定の効力を出し切れないので、組織の活性化のためには裾野の人口を広げることがすごい大事であり、それは課題の部分ではないかと思っています。
委員	お聞きしたいのですが自助・共助・公助とあり、その中で町民が主体に活動を行う領域と書いてありますけれど、活動というのはもっと細かく言えばどういったことなのでしょう。まちづくりをすることの活動なんですか。団体があればそれを全部協働とは言わないと思います。活動とは主にどういう活動をしていることをこの中の協働と言えるのでしょうか。そればわかればこれが協働、あれも協働と出ますけれど。
会長（司会）	キーワードは自分でできることは、自分ですることが前提にあると思います。
副会長	例えば、PTAとかはそうじゃないでしょうか。
事務局	例えると自治会活動が正しくそうなんですけど、地域の行事や個人、団体のボランティア活動などを俗にここで言う町民が主体的に活動を行う領域になります。
委員	ボランティアの中にも町に対してのボランティア、世界に対してのボランティアなど色々なボランティアがありますが、全体的なボランティアということで理解してよろしいのでしょうか。私は団体でエコキャップの関係で世界にワクチンを送っていますが、これは町民のためのボランティアではなく世界に向けた活動となります。それが町民主体の協働に当てはまるのかどうかです。
事務局	その活動も協働には当てはまると思います。
副会長	サークル活動で自分たちだけで楽しんで完結していればそれはそれでいいと思いますが、その活動が発展して外に向いていけば協働になると思います。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員	私もそう感じています。自分たちの趣味だけに固執しないで、趣味を生かして指導したり一緒に作って体験させたりするなど自主的にサークル活動の一端として、趣味を生かした自主活動がボランティア活動になっていくのだと思い、そういう感じで受けています。
副会長	そこで単なる仲良しだけで完結するのではなく、そこから一歩前に出ることが協働につながることにしたいと思います。
委員	10年区切りで終わってしまったけれど、盆踊りを立ち上げて10年間自主運営で町民の手作りの事業をやったというのも当てはまると思います。また、継続するキッカケを作っていて、町の事業をやっているということが自主的な活動であり、自分でできることは自分たちでできる町興しもあると思います。
会長（司会）	住民の力がすごく強くて、この流れの部分で行政の協力を得てやってきています。その流れの関わる部分の幅を、今より広げていきたいということが協働の精神につながると思います。ご自身に関わることで構いませんのでご発言をお願いします。
委員	私たち「えくぼ」福祉会の活動そのものが協働の形だと思います。協働の形態の中で、事業委託の形態がありますので私たちはそこに該当します。活動場所も町から提供頂いていますし、施設内の掃除だけでなく、みらい農業センターからも全員での収穫選別作業などの委託事業をさせてもらっていることが、正しく協働の形になると思います。私たちのようなNPO団体でいえば町内には幾つかありますが、それぞれの団体と町とのつながりというか、町のバックアップを得て事業を行っているところが殆どであると思います。ただでも課題として思うのがNPO同士のつながりというところが少し希薄なのかなと思っていて、私も数あるNPOの中で、実際どういう活動をしているのかわかるところが限られたところだけです。私の意見になりますが行政にお願いしたいのが、それぞれのNPO団体が顔を合わせて意見交換をできるような、そういう場面を是非仲を取り持って頂き作って頂けたらありがたいですし、またそこで意見交換する中で、自分たちでは活動することが難しいけども、それなら違う団体がその部分はカバーできるということで意見を貰うことにより、また町に対して強く関わっていけるため、そういう機会を作って頂けたらありがたいと思っています。 あと、福祉の行事でいえば、例えばしゃきっとプラザを会場にして行われているふれあい広場とか、カレンダーリサイクル事業といったイベントが正しく協働という形に当たるとは思いますけれども、協働の中で実行委員会形式により何れの事業も行っております。基本的には実行委員に選ばれた町民の方が主体的に事業を行う中で、行政が事務局的な役割を果たし、例えば会合がある時に周知をしたり取りまとめをしたり、資料作成をするなどの役割を担ってくれています。やはり、自分たち町民だけでやろうと思ってもなかなか難しいところがあるため、行政の力が絶対的に必要なところがありますから、双方がそれぞれの役割をキチッと持って、良い形で行われている事業の例だと私は思っています。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
会長（司会）	今、すごいキーポイントが出ましたね。NPOに関わらず同じような活動をしている組織が、バラバラでやっていくことも勿論構いませんが、やはりお互いが横の連携を密にして、その組織の立場を客観的に見ることによってプラスアルファ色々な発見が活動に普及していくかもしれません。美幌には多くの組織がありますので、美幌の個性として、その部分を上手くまとめて横の連携を密にしていくという、良い意味でNPOの横の連携が若干少ないという課題が挙げられました。
副会長	今の内容の中で、NPO法人は非営利法人でそれぞれが活動されていますよね。素朴な質問ですが、役場に頼む話なのでしょう。その人達がNPO同士でネットワークを逆に持ってはいないのですか。
委員	現状はないです。私たちのような福祉団体同士の横のつながりというネットワークはこの管内にはありますけれども、NPOといっても確か14の事業ができるはず。ですから色々な事業をそれぞれの団体でされているので、なかなかその団体同士が一つのところで顔を合わす機会ってないです。だけど、そういう機会があれば同じNPOで活動していますから、目的や志は通ずるところがあると思いますので、もっと活動の幅が広がる協力できる場面というのが増えていくようには思います。ただ、私たちが手を挙げてみんな集まろうよと言えればいいのですけれども、付き合いが普段ないものですから、町が力を貸して頂いて何とか取り持ってもらえたらスムーズにいくのかなと思っています。
総務部長	情報になりますが、今から何十年になりますかね。今のような話しが当然くすぶっていて、同業種、例えば福祉と医療は連携が強いんですよね。それから保健と福祉もそうですが、同じ活動を行う団体ですとかボランティアなんかは、なかなか団体間のお付き合いがないという話しがあって、私が担当した何十年も前に国民健康保険連合会という組織があり、この事業である大学の先生を呼んで、医師会から福祉団体から町の保健の担当者、保健師、近隣の津別や女満別を含めて美幌グランドホテルでワークショップをやろうとなり何十もテーブルを作って、医者もいれば保健師もいれば福祉団体もいる。職員が司会役になってみて、そこで色々な情報交換から始まって課題を出し合った時に、その時にお互いにお互いの活動が見えてないことが良くわかり、同じような団体なのにこういう違う活動をやっているんだとわかりました。医者は医者で介護をよくわかってないとか、介護サービス事業者はなかなか敷居が高くて、医者に患者の引き受けの情報を要求できないなどの敷居の高い意見が出たりしました。そういう場を設けたのが実は発端で、それから井上委員もご存じの保健医療福祉ネットワークの基本計画づくりをまず始めました。一年間かけて作り、それを実行部隊として今の推進委員会というものがあり、そういうところで齋藤委員のような団体の人達の横の連携ですとか情報交換だとか、同じ問題や課題を共通認識し、正に共助としてお互いに協働作業して、お互いにできないところは何とか力を貸すなどの情報交換の場であったり、新しい事業を取り組む母体、実際にはそこで行動する訳ではないのですが、色々な課題を見つけて手法を考える。こうしたらいいんじゃないとか、これは例えばここまで役場でできるんじゃないとか。これは医師会で何とかできるんじゃないという色々な提案を出すという組織を作ったのが実は今の推進委員会なんですよ。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
総務部長 （前頁に引き続き）	今はどこまで動いているか私はわかりませんが、場所は今まで作ってきたんです。これが動いているか動いていないかは別ですよ。是非ですねそういったところに、そうした場を設けてほしいと言えば設けてくれますから。そこは色々なテーブルを持っていて、同じテーブルで今回提案して情報交換とかの課題を色々共有したいんだと。テーブルを設けて同じような立場の同じような団体がそこで意見を出し合いながら、お互いに助け合いながら、正に共助の世界の中で、そこでこれはやっぱり公の税金を投資してもらわないとなかなかできなければ、そこに行政が出てきて出来ないところは一緒にやるというのが公助になります。正に協働のまちづくりがそこに芽生えてくることになりますので、是非そういうところに要望してください。参考までに、事務局は民生部の健康推進が担当していますので是非行ってください。
副会長	委員が思っていることを実施しているということですね。
委員	委員は出席されてないと思いますけど、今現在、社会福祉協議会で福祉に関わる団体の交流会は年一回やっていると思います。
委員	グランドホテルですか。それは、出席させて頂いています。
委員	役場や社会福祉協議会も結構そういうこともやっていますし、具体的にどうしてほしいという要望を出せば、福祉協議会の事業作成の中で反映はさせられると思います。この11月に福祉協議会の理事会もありますし、年明けは新年度に向かってそういうこともやります。福祉協議会自体も色々な団体から寄付などの頂いたものを、ボランティア活動しているNPO法人などに金銭的にフィードバックしていますよね。そういうこともやっていますし、それをもっと違う形に委員が言われていることを、今一番手っ取り早いのが、やはり社会福祉協議会は役場の高齢者福祉担当や保健医療福祉ネットワークなどと連動していますから、ある程度の組織づくりはできるのではないかと思います。委員のような立場の人も会合に何人もいませんが、メンバーには療育園の事務部長なども入っています。その中でどういう情報交換をされるかは、そこに参加された団体代表的な立場の人が積極的に交流や会話して頂ければ、また違う形で結び合っていくと思いますし、「えくぼ」であれば美幌あって、管内あって、道あって、国あってと中央までつながる団体もあるかもしれませんけれど、美幌の町だけのつながりを、例えば美幌療育園とかどこだとかまだ何件かありますよね。そういう人達とつながりたければ一番良いのは団体の代表者達がリーダーシップを取って、その人達と集まりませんかと話し掛けるのもいいし、それができなければ美幌の福祉の中核をやっている社会福祉協議会あたりに音頭を取って頂くのも一つの方法だと思います。
会長（司会）	貴重なご意見ありがとうございます。
委員	委員が言っている協力して横の連携を取りたいということは、「ピポロ」だとか「マイスペ」の関係だとか、そういう所属団体の人達と横の連携を取りたいということなののでしょうか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員	そうです。ただ、福祉の事業所や団体同士のつながりというのがありますが、そういう代表者なり関係者が集まる機会はあるのでいいのですが、逆に福祉以外の垣根を越えた、例えば福祉の人達だけではなくて、経済関係者とか商工関係者とか医療とかの色々な人達が集まる意見交換の場がないものですから。NPOの事業は多岐に渡っていますから、なかなかNPO団体同士の顔を合わせる交流の機会がないのです。けれどもNPOの根底にある非営利、利益を追求しないという部分では、まちづくりの部分でもかなり大きく活動されていますから、そういう同じ志を持った分野の違う人達が集まり、またそれぞれの活動分野以外の意見を重ね合わせることでもっと違う見方ができ、違う部分で活動の幅が広がるという思いがあります。
委員	保健医療福祉ネットワークは3つに分かれており、その内の一つに委員の「えくぼ」もどこかのグループに所属しており、ネットワーク推進委員会という場所で提案して実現しているものがあります。有償ボランティア「さくらんぼの会」もネットワーク推進委員会から出てきました。町民の人達がこんなものがあってもっと福祉が充実するよねとか、いいよねと意見を出し合った中で、折り梅の会もネットワークから形になり現実に会として出来上がったんですよ。Aグループからは、ピュアの母乳事業は、個人で実施していましたが大変ということで話しを受け、ネットワークの中で話しを吸い上げて現実的にそういう形で場の提供を町にしてもらい、それ以外は自主運営でやっています。そしたら、町の妊産婦や経産婦の人達もわざわざ北見や網走に行かなくても町内でケアできるようになりました。個人で志を高く持っている人をそういったところが、ちょっと手助けして場所を提供することで自主運営しています。町民の皆さんも助かるし、そういう関係が出来てきています。ネットワーク委員会は、それぞれ所属団体から代表してきているので、是非グループの話し合いの時にそういったことを、何とか横の連携で垣根を越えた話し合いができるようにもっていけないかどうかであり、ネットワークをもっと利用したほうがよいと思います。そこからどんどん発信してきたことでネットワーク委員会も止めずにきています。ボランティアで年何回か集まる会ですが、集まった中で発信していった良いものが出来てきているので、それを継続して何とかやっていきたいと今のネットワークが続いているのがそこなんですよ。代表で出席している人に意見を言ってきてもらうことも方法としてあります。今度も20日に会議があり、その時にグループ討議の中で出してみてもいいですか。
会長（司会）	是非、先ずは一歩行動に移してもらえようお願いします。
委員	ある一つの団体ですけど、最初は趣味で自分たちの活動をしていました。美幌町文化連盟に入り、その団体は美幌町の活動にチョコチョコ首を出していくようになりましたが、それも協働であると自分では考えています。多少なりとも町民がそういうところに参加していくことで町づくりにつながるのかなと、今はじめてこういったことも協働なんだと思うようになりました。
会長（司会）	例えば、そういう人達を一人でも多く増やしていくことが、今後の課題だと思いますが、何か意見はないでしょうか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員	先程から、各自治体の資料を見ているのですけれども、ただ文字ばかりが全部書いてあると、やはり見づらいですね。見るのは疲れるから止めようとなってくるので、挿絵とか色々なものがあって、これ何だろうと、こういうことだったら私も参加でえきるよねという興味を持てるようなものを作って、美幌の人に配布したらいいなと思っています。
会長（司会）	正にそのことをやりたいと思っています。文字を極力少なくして、イラストをたくさん入れてわかりやすいものを配り、何か一つキッカケとして興味の持つことは人それぞれなので、バラバラでもいいから少しずつ増えていくと良いかなと思っています。
委員	資料をつくる際に砂川市のような事業一覧がありますが、これを組み入れようとしているのでしょうか。協働に関しては色々なボランティア団体が活動していますが、この事業一覧はあくまで事業に対してどこの団体が入ってお手伝いしていますとなっています。それともボランティア団体がこういう事業にお手伝いしていますよといった形で作るのでしょうか。二つのパターンがあると思うので確認したいです。
事務局	具体的な活動をしている団体を入れる予定は今のところなく、委員が言われるとおり字が多いと見にくくなるため、イメージとしては三原市の資料のように絵を多く取り入れて目を引くようにして、ごく一部ですがこういう団体がありますよというものを想定しており、町内全ての団体は掲載できません。
委員	ボリュームはなるべく薄めと聞いていましたが、砂川市のような資料を作る予定はないのですね。
事務局	指針の作成になりますと、アドバイザーを招へいしなければなりませんので、そこまでは考えておりません。
会長（司会）	概要版的なものをイメージしています。なるべくボリュームが少なく、わかりやすいものをとということです。
委員	魚無川の清掃の取り組みなども正しく協働になるのですよね。砂川市の資料を見ると保護司会や消費者協会とか色々組織が載っていますが、こういうものではなく、町民の人達が活動することを大きく取り上げることで、こういう活動が協働になるんだ。こういうことだったら私もできるような形にした方が入りやすいと感じました。所属団体というのは宛職で申し訳ないけれど入っている人もいるだろうし、色々な部分で重なっている人もいるので、そうではなく魚無川の活動であれが、魚が住める昔のきれいな川にしたいという単純な思いから色々な団体を巻き込んで大きく広がっています。そういうことが大事で最初は少ない人数でも、どんどん町民の人達が参加していった大きな活動で、そういう良い活動で裾野が広がってもっともっと発展し、町づくりにつながると思います。そういったものを中心にアピールしていくことがいいと思います。
委員	協働は実際にはやっていますが、文書化するにはどのようにしたら良いかということだと思います。文書化するだけでなく、絵や写真を入れ

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員 （前頁に引き続き）	て作るのかのどちらかだと思っています。
会長（司会）	勿論、協働には取り組んでいます。それをもっともっと太くしていくことがやはり大事なのかなと思います。
委員	これまでも、後継者や次世代のボランティアをどうするかという話も出ていますが、みんな年寄りで60代前後が多いですね。30代、40代が入ってくるとずっと続くと思いますが、その年代を入れていくにはどうしたらいいかと今悩んでいます。
会長（司会）	どこの分野も課題だと思います。
副会長	協働に関しては、たぶんここにいる方々は何らかの形で色々と関わっていると思います。あえて協働という言葉を使わなくても皆さんは日常的に絡んでいると思います。総合計画でこの委員会から数名の委員、私が参画していますが、本委員会の他の委員もみらいまちづくり会議に入っていないでしたか。
委員	私は入っていません。
副会長	NPO団体から誰かが出ていましたか。
委員	はい、そうです。
副会長	この会からは委員の一人が代表して会議に出ることが、正しい協働の一つのポジションだと思っています。これまでの会議の中で何か実のある話がありましたか。感想などがあったら教えてください。
委員	この前の8日に施設見学に行ってきましたが、やはり無駄なところに無駄なものがあると感じました。ここにこんな大きな施設があるのに使われていないのは何でなのかなと。
副会長	例えば、どういうことですか。
委員	峠の湯ですが、お風呂だけ利用されていて、レストランはやっていないし、上の座敷とか会議室があるのですが、今は使われておりません。レストランがやっていないからなのか使われていないんですね。前に私の親が会議室を使いたいため聞いてみたら、持ち込みとかは一切ダメですと言われたんです。それだったらダメだよなってことで、別の場所を探しました。持ち込みとかをさせてくれるのだったら、お風呂も入れるし一日遊ぶのには丁度いい場所で、良いところなのにと考えていました。他の施設はこういうことをしていてすごいなとか、色々な感じで一日見してきました。
副会長	みらいまちづくり会議は何回行ったんですか。
委員	これからです。今度の22日に開催します。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
会長（司会）	一度開催しましたよね。
事務局	はい、一度顔合わせをしました。これからいよいよ会議が始まります。
副会長	私や会長が入っている総合計画審議会には、本委員会の委員が副会長になっています。
会長（司会）	協働の部分は、また次回話すようなことになりますか。それとも取りあえずここで一段落させますか。
事務局	今日で話し足りないようであれば次回も行いますが、どうでしょうか。
会長（司会）	副会長が言われたように、皆さん何だかんだ活動されているんですよね。掘り下げていくと、この委員会も協働だし、消防団や民生委員も協働だと思います。今さら何よという意味はないのですけれど。
副会長	先程質問された部分も、大きな括りの中では協働として全く問題ないと思うし、美幌町だけの活動にとらわれることもなく、取り組みとしては問題ないと思います。
委員	協働は皆さんやっているの、逆に太くすることを会長が言われましたとおり、よく見るとみんな似たようなことをやっている団体があり、それを足した結果太くなる。発言の場をどうやって設けるかもそうです。協働と協働を足すと大きな協働になると思うし、色々な団体があると思いますので協力し合うともっと大きな協働になります。
会長（司会）	要するに裾野を増やすことも大事だけれども、先にあるそのものをまとめていくことも必要になります。
委員	横と横のつながりで、もしかしたら助け合いができて、一つの団体でなく、三つの団体が同じ行動ができるということもあると思います。
会長（司会）	また、協働の醍醐味というのも個性の違うところが得意分野を絡めて、大きな力にもっていくことも大事です。
委員	そういったことを美幌の資料にも入れていっては良いのではないかと思います。他のところも協働はやっていますと書かれていますが、もう一歩進めて、協働と協働を足すようなパイプをどうにか作ることを、どういう表現をして良いかわかりませんが入れた方が良いと思います。
会長（司会）	美幌町も色々な組織が多いですから、そういった部分も良い意見だと思います。ありがとうございます。
委員	「らんざんの会」は教育委員会の方から行かして頂き、帰ってきた人達だけで会を作っています。自主的に、補助も何も頂かないで活動し、そこからやっと30年になっていろんなところに、委員会なんかにも出して頂いてもらったり、リーダー的なところをあちこち行かせて頂いて

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員 （前頁に引き続き）	それが7年間ストップ掛かったんですね。やっと今復活して、また行けるようになりましたけど。研修に行く人を探すのもなかなか大変というか今は。もう、70歳近い人が行っても活躍する場がないんですよ。けれども、50代とか60代前くらいの人が行ってくれないと、復活させては頂きましたが、会はなかなか続かなくなりますよね。
委員	協働とか自助行動とか率先的に町民の人達が参加してもらって、はじめて協働だとか、これも協働だねとかの話になりますが、そこに若い人達や後継者づくりで参加をどうやったらそういう人達を引っ張り込んで、巻き込んでいけるかということを考えていかなければ、これから担い手を増やすことは難しいと思います。「らんざんの会」のように研修費用を町が負担し、必ずその研修に行った後は何らかの形で町のボランティア活動だったり、何かの活動に自主的に参加していくことを条件に研修に行っています。そういう機会を条件付きな研修と言ったらいいのだろうか、育てていくようなものとか、町で集まりを作って楽しさとかの機会も作りながらでなければ、町民協働の町づくりはそこから始まらないといけない。タイトルだけこういうふうにしてくださいという、形だけのタイトルにならないようにしていかないと、せっかくの自治推進の意義あるためのものにするには、そういうことも考えていかなければ、町づくりの先は余り見えないかなと正直思います。美幌はけっこう活動している人はたくさんいると思いますが、先程から出ているとおり横の連携や手をつなぐことが、こっちはこっち、あっちはあっち、私たちはこっち、俺たちは俺たちという活動を意外としている感じがあります。例えば、壁を越えて色々なことを考えたいと私はいつも思っていますが、「びぼろ」だったり「えくぼ」だったり、色々なところで自主的に物を作って販売したりしていますが、町民の方は石けんをどこで作っているかわかっていない。「美サイクル」や「びぼろ」でも作っていますがそういうことがわからない。観光物産協会にチョコット置いてあったり、一年に一回の北療祭の時に販売したりとかではなく、どこかのイベントの時にまとめて美幌町の障害の人達で作ったものとか、部分的ではなくて、各NPOの製品を一箇所に全部の品物を販売する場所を一年に一回でも二回でも設けてあげるとか、菜の花の油を絞って製作しましたが、フレンズの会の製品だとか、協働の裾幅を広げていく方法もあると思います。そういったことも考えながら、本当に町民協働の町づくりを目指したいと思うんだったら、そういうことも考えながらいかないといけないような気がしてならないです。
会長（司会）	特に「らんざんの会」を例に挙げたら、部分的にバランス良く若い人達に研修に行ってもらわないと、だんだん効果が薄れてきます。
委員	研修に行ってきたら「らんざんの会」に入らなければならないという縛りがあると、行く人が逆に考えてしまうと思います。
会長（司会）	「らんざんの会」は、会で活動している人ではなくて、研修に行くことで「らんざんの会」に入ることになるのですか。
委員	研修に行ってきた卒業生が集まっていますが、「らんざんの会」に入ることがすごく重みで、行く人が一歩下がってしまうことがあります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員	そういう枠を外して、町独自で研修を行ったり、興味を引くようなキッカケづくりの集いをするとか、そういうところから参加してみようかなという気持ちを養っていくとかあると思います。
委員	一つの例で言いますと、私は絡んではいませんが商工会議所が主宰で今日も会議をやっていると思いますが、横のつながりで若い人の団体で J C、商工会議所青年部、J A 青年部、ロータリーアクトなど 8 つ程度の団体で、先ずは目的を作らずに会議をやっており、今日で 4 回目だと思います。会議所が主宰ですけども、余り若い者にこれやれあれやれと言ったら、それならやらないということも上の方では考えておまして、取りあえずは聞く耳を持って、何をやりたいのか何をやったら町的にいいのかを提案してもらい、将来的にどういう方向に進むのかはわかりませんが、若い人達が集まっている実態があります。
副会長	商工会議所に係わる方が委員長と副委員長でしたか。
委員	はい、そうです。
会長（司会）	総合計画のみらいまちづくりにも入っていますよね。
委員	はい、その会議にメンバーを入れたいことで、2 ヶ月前か 3 ヶ月前に急きょ間に合いように設立し、誰かを参画させようとしたものです。
委員	そういうキッカケをもっと増やして頂いて、どの所属団体も後継者ですごく困っていると思うんですよね。だから、年配の同じ人達が被って色々な団体に所属しているので人が増えてこないと思います。
委員	若い人の中で聞いた話ですが、ボランティアをやりたい話しをするらしいのですが、どんな団体があるかわかっていません。何処にどういう団体があって何をしているのかを探さなければならないし、わからないし、それをわかるようなものを配布することで、こういう活動を私もやってみたいとか、体験してみたいとか言う人が必ず出てくると思います。先ず皆さんに承知してもらうことから始めないと、後継者のことよりも、そういう団体が何をしているか、わかっていないからという感じの声を聞いたことがあります。
副会長	町のホームページは見ないのですか。
委員	若い人達は見ないです。違う方角を見ているから。
副会長	若い人達だからホームページを見るのではないですか。町のホームページは開かないのですね。
会長（司会）	私もそういう意見はよく聞きます。定年後に何かボランティアをしたいと言っていた人に、時間が経って何か決まったと聞いてみたら何もやっていませんでした。やはり、そこで何かきっかけがないとできないと思います。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員	意外と町はリーフレットだとか こんな町ではこういう団体がありますとか、こういうことをやっていますとか、皆さんは知らないかもしれませんが、意外に集めたらものすごい数のものがあり、行政は出しているんですよ。
委員	見る機会がないのでしょうか。
委員	町の広報紙だって広報されているし、年4回の福祉協議会の会報を出されたり、女性部も出しています。個人配布ではなく回覧配布にしているから見る機会がないとか、見てもらえる機会がないかもしれないけれども、どこら辺までやっていけばやってもらっているとか、団体に入らなければボランティアができない問題でもない。自分の邸周りの昔で言う両隣で、例えば雪が降ったら隣が高齢者であれば雪投げしてあげるのもボランティアだし、そういうつながりから裾野を広げていかなければなかなか難しいと思います。手前どもの団体を宣伝する訳ではないですが私は自治会連合会から出ていますし、自治会連合会という組織を作る前に、自治会は各部会を8部会作って活動している訳ですよ。ただ、残念なことに女性部あたりでも自治会自体で女性部に加盟しない自治会も正直出てきています。そうかと思えば防火関係ですとか、交通関係ですとかは積極的にやって頂いています。交通関係は美幌署長にお会いしたら、こんなにしてくれる町はないと評価をしてもらっています。現に事故の発生率ですとか死亡も減っている。個人が参加する旗振りなんかにも出てくれています。例えば、衛生部あたりでは今度の19日に全町の年3回ある一斉清掃がありますよね。町の地域のゴミは地域で集めて、集めたゴミは普通はお金が掛かりますけど、その時だけは町が無償で受入しましょうと。立場、立場で行っていることが協働だと思います。そういったことを色付けすればいいのではないのでしょうか。自治会連合会の8部会の事業を積極的にやって頂ければ、先ず美幌町全体の主なものになると思います。女性部でいえば、町場の女性部と農村女性部が何かやる時には実行委員会を作って一番皆さんがわかっています、子ども小劇場あたりもやっていますしね。そういうことを利用して、足りないと思っているところがあればそういう事業の前に提案して頂ければ、小中高に分けて確か年一回映画上映なんかやっていますよね。そういったことは色々やっていますから、だからやって頂いている親御さん達が団体がやっていると理解していなかもしれないですね。
副会長	身近なところでは自治会活動かなと思います。花を植えますよとか、ゴミ拾いしますよとか。そこに参加してもらえると、また、見ず知らずの人でも同じ行為をすることで会話が增えます。そうすると町で会った時にこの間はどうもみたいになり、そこで話しが広がっていくと思います。自分も役員をやらしてもらってすごく感じますよね。
委員	言葉は適当でないかもしれませんが、貸し借りの世界がありますよね。今回俺がそれに出たから、俺の顔で違うところに来てよとか。やはり情報交換をいかに出来るか出来ないかはその人の考えであって、だから積極的にやればいいと思います。自治会連合会あたりも年一回研修旅行というか管内大会に行きますが、参加者は多少は変わりますけれど大体は限られた人です。仕事があって行けない人もいますので、行ってきた人

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員 (前頁に引き続き)	がフィードバックしてそれを広めて頂く。それで一人でも二人でも新規参入してもらえます。参加できる会議を増やすとか、何かコツコツ努力してくれる人がいなければならないと思うし、今回こういう委員会の中で意見が出たということは、現会長である早田さんが今後リーダーシップを取って、協働の活動を積極的に進めていくようなことをしていけば、まだまだ広まっていくと思います。
委員	違うかもしれませんが、美幌でも冬まつりがありますが、これに先ず出てこない人がある。冬まつりは昔からスポーツセンターでやっていたが一回断ち切れてまたやり出した。あの頃はローターアクトの若い人がたくさん出てくれて看板造りとか全部やっていましたが、この頃ローターアクトは余り出てこない気がします。冬まつりなんかは。青年会議所とか農協青年部や女性部などに色々と声を掛けて今年は雪像も造ってもらおうかと。町の青年部や商工会議所青年部に一基ずつ造ってもらおうと考えているんですね。去年そういう話しをしましたが、先ずはお祭りに出てこない、手伝いにも出てこないのが多いですね。一番関心があったのが、町議がお祭りに顔を出す人がいないことです。そういう話しをチラットしたんですけど、どういうことをやっているのか、イベントをやっているのかわからないような人が多い訳です。やるとしたらみんなで作るのが一番良いですが、昔からみたら手伝いにも来ないし、ほとんど見にも来ないです。
委員	見には来られていると思いますが。
副会長	議員さんという組織で手伝いなんかに入っていないじゃないですか。悪いですけど、そういう見方をされたら行きたくもなくなると思います。お前出て来ないじゃないか、そういうのしか出ないじゃないかとか。
委員	そうは言ってはいいませんが、協働だからみんなでやった方がいいんじゃないかと気がします。出る人は出る、出ない人は出ない。手伝いにもなかなか出れないですね。来ないとできないし、やはり手伝いがいなかったら、ああいうイベントは出来ないと思います。
副会長	どういうポジションでお手伝いされているんですか。
委員	冬まつりは、今は実行副委員長で出ています。
副会長	だから、それだけ熱くおっしゃられると思いますが。僕は参加もしないし、見にも行けない人間だから余り言えませんが。
委員	私たちは青少年部でやっていますが、ビーライブに少しずつ参加してもらって、若い人を取り入れようと思っています。
委員	私は商工会議所青年部でずっと手伝っていますので、それだけは言っておきます。焼肉の炉の準備を行っているのは青年部です。
委員	わかっています。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
委員	人の表現力は自由ですから、具体的な固有名詞を出して話し合うことはプラスマイナスが出てくるものです。だから、どんな形でもいいから。冬まつりは僕ではなく事務局長を出させて頂いていますけれども、僕も大体冬まつりの時には何かどこか行って居なくて手伝えないのですが。一昨年は防犯の方で出ましたけれど、それを言いはいってしまうと、出づらい人は出てくるし、いかに一人でも多くの方が美幌の冬を代表するまつりですからやってよとか。僕らも他力本願ではいけないと思っています。話しは変わりますが、例えば、商業活動のイベントにしても商業者だけがいくら頑張ったってダメな部分がありますし、農業の分野だってそうだと思います。個人的なことですからこの会で発表することではないのですが、私も個人的に酒の会とか色々やっていますが、結論はやはり主催者が一生懸命やるのでなくして、それをサポートしてくれる人達がどれだけ人集めしてくれるかなんですよね。どこでどういう関係、縦横のつながり、特にこういう小さい町ですからこの団体がどうだとか、これがこうだとかの考えを持たれている方も現実にはいらっしゃるでしょうけれど、そうやってきちゃうと大変なことになるし、また、若者は若者での言い分もあるでしょう。時には意見の交換会をして、どういう形にしたら出やすいとか、日曜日じゃなく、一般的に主催者は日曜日にした方が出やすいのではないかと設定しますが。逆かもしれないけど火曜日が良いと思っているかもしれないし、具合的な話しではないですよ。そういった色々な意見を聞いて、協働というのはなかなか一つの意見でまとまってやるのは難しいと思います。人的に応援はできないけれど金銭的なささやかな寄付行為はできるよとか、そういう人は現実的にしていると思いますから。そうやって盛り上げていかなければなかなか難しいと思いますけれども。まだまだ地域、地域にバラツキはありますけど、美幌は管内みても自衛隊さんがいるお陰で高齢者率は低いですからね。まだまだ若者もいると思いますし。そういったキッカケは色々団体に入っているから入っていないからでなくとも作れる可能性はあります。ただ、残念なことに自分も所属していて、早田委員も稲垣委員も所属して長をやったこともあると思いますが、昔の若者のグループのリーダー的な存在でやっていたグループが、今は人数がいなくなってしまったという現実がありますから。それが何かといったら青年会議所ですけども、当時は50、60名くらいの会員がいて色々な活動をしていましたけれど、それがある程度青年の集まりのリーダー的な存在でやっていた。今は残念なことに、十分の一の5名までしかいなくなったことで、やはりそれも世代交代でしょうから。それを取って変わって頂く商工青年部ですとか頭数、人数が多い訳ですから、そういうものに変えて頂くとか、そういう人達がリーダー的な立場になってやって頂きたいと思います。今度の役員改選の時には20代の町民ばかり集めて、この委員会をやっていくというのも一つの方法だと思います。
会長（司会）	たくさんのご意見が出ましたけれど整理する部分と、また課題の部分の意見もたくさん頂いたと思っており感謝申し上げます。委員の話しではないですが、公式でユーチューブなどで美幌町のユーチューブでこういうことをやってますよと動画か何かを流し、若い子がそれを見て、これだったら私出してみたいとか、そういうキッカケも今後の活動になるかもしれませんね。そういう柔らかい部分もやっていかないとなりませんね。パンフレットは若い人は見ないのでしょいか。色々な柔らかいア

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
会長（司会） （前頁に引き続き）	アイデアを出していきながら取り組んで行きたいと思います。今後も協働の部分で絶対に会議の中で出てくると思いますので、一旦今日は閉めさせて頂きたいと思います。また、今後の課題に向けて話しを進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。今日もたくさんのご協力ありがとうございました。時間も予定通りになりましたが、事務局から最後に何かございますか。
事務局	特にありません。
会長（司会）	では、慣例になりつつありますが、副会長から一言頂き、閉めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
副会長	今日は太い協働を作るということに重きを置かれた話しになりましたが、皆さんそれぞれの立場で無意識の中できっと協働をされていると思います。関わってみたいけど、でも面倒くさいなという思いがあったり、そこに我々のようなお節介軍団のおじさんやおばさんが側にいると、良い意味で引っ張られ、また、そこで輪が広がるんだらうなと思っております。自分の関わりで喋ってしまいますが、自治会で交通安全部会に所属しています。自治会連合会の交通安全部会は割と自治会の中では結構大きくあるんですが、特に交通安全に関して実践部会というものがあり自治会であったり、企業でたくさん運転手や車を持っているだとか、車の販売員さんだとか、色々な交通安全や車の安全に関わる絡みのある業者や団体がたくさんあるんですよね。それを束ねている一つの実践部会があって、そこで正しく明日一時半からトヨタカローラ・トヨペットさんの前で街頭啓発の旗の波をやります。毎回100人くらい集まりますが、これが見事なんですね。出たことがある方は勿論多いと思いますけれども、また、出たことのない方もいらっしゃるかもしれません。一度あの場所に出てみると、たかだか30分旗を持ってただ立っているだけなんですけれども、あの活動をすることによって小さい皆さんの旗一本の100人の塊が、今、美幌町で交通事故死ゼロが約800日少々展開されています。千日に向けて勿論ゼロが続けば良いのですが、皆さんのささやかな思いが繋がって、今、交通事故ゼロというか安全安心な町づくりの一つに我々も関わっているという思いであります。そういう運動がありますので、もし皆さん明日時間がありましたら、一時半から参加して見て頂きたいと思います。参加費無料ですので。違う団体の活動を町民として参加して頂ければと思っています。ここからバスも出ますよね。
まちづくり主幹	1時15分までにお集まり頂ければ役場前からバスが出ます。
副会長	宣伝も含めつつ、この自治推進委員会が益々実り多い会になりますことを祈念いたしまして、今日の会議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。